

## 30 期所沢地域史 グループワーク 発表会

2025-1-30 記 吉住 俊彦

- 開催日時：2025 年 1 月 30 日（木）13 時 30 分～15 時
- 参加者：30 名（会員 22 名、所沢地域史発表者 8 名）
- 発表者：所沢市民大学第 30 期修了 所沢地域史グループの皆様

## テーマ「所沢・市（いち）と地域性」

近世から近代（江戸～明治）にかけての通史の中で、所沢の地域性がどんな発展を可能としたのか、夫々の時代の主役である街道（交通の要衝）、三富新田開発と武蔵野新田開発（商品作物）、三八市（定期市と貨幣経済）、所沢織物（農閑余業）について、以下の内容で発表されました。

## 【要旨】

- 江戸時代、市内を横断して江戸へ向かう江戸道や新河岸川の舟運を利用するために河岸場に向かう道が発達。所沢は江戸に近い立地を活かして交通の要衝、物流の拠点として発展。
- 不毛の武蔵野台地が、「三富新田」や「武蔵野新田」として開発され、新しい村ができ入植者が増え、穀類（大麦・小麦）・甘藷・お茶・藍葉などの換金作物を生産供給する農業村落に発展。
- 街道・舟運整備により、人・物・金の流れが盛んになり、域内に穀物や日用品を取扱う定期市「三斎市・六斎市（三八市）」が開かれ、江戸地回り経済・換金貨幣経済が発展。
- 江戸時代後半から農閑余業として織られた所沢織物は、三八市で主に取引され、「所澤飛白」ブランドとして全国販売。

## ● 鎌倉街道と三斎市の始まり

街道は、古代から中世にかけて、政治的、文化的に重要な役割を果たし、その地域を知るうえで貴重なものです。鎌倉街道沿いの宿から東に延びる道（江戸街道）に町割し三斎市が始まりました。所沢商人が 1639（寛永 16）年「市祭」を行った際の祭文「武州多摩郡山口領所沢村市祭」が有楽町の「三上家」に伝わります。

## ● 武蔵野開拓史

「三富新田」開発は 1694（元禄 7）年に川越藩主となった柳沢吉保らにより着手され、開拓から 2 年後に開墾が成功し検地が行われました。各農家の地割は間口 40 間・奥行 375 間、平均約 5 町歩（約 5ha）の短冊形耕地で、平地林活用の武蔵野地域「武蔵野の落ち葉堆肥農法」は循環農業モデルとして、2023 年に FAO による 世界農業遺産登録となりました。

## ● 農産物と今も生きる食文化

**狭山茶**：三富新田では「畦畔茶」として植えられ貴重な現金収入源でした。**さつま芋**：救荒農産物かつ自家用食料。**手打ちうどん・焼き団子**：麦を使った手打ちうどんは最高のご馳走で、慶事などに食され、陸稲 が原料の焼き団子は、農作業の合間のおやつとして家庭でも作られました。



## ● 六斎市（三八市）

秣場と呼ばれた武蔵野台地が新田に生まれ変わる時代。所沢「三斎市」は「六斎市」に拡大。取扱品は、穀物・肥料・食料等生活必需品（塩・金物等の非自給品を含む）の他、地場農民による農産物・農閑余業による物産が取引されました。川越から「江戸では売れない品物」古着・古布団・古道具を仕入れて売り捌き、「所沢のぼろ市」と呼ばれました。1750年頃から徐々に「江戸地廻り経済」が浸透し、「市（いち）」の性格を変えていきました。所沢「六斎市」は、当時の新製品であった「綿織物」の集荷市となっていました。

## ● 開港期/所沢の織物

所沢は、①広大な武蔵野台地の一部②狭山丘陵③柳瀬川に沿う低地に三区分されます。耕地に恵まれず、稲・麦作だけでは生計が立たず、養蚕や機織といった副業が必要でした。

**養蚕** 元禄前後から絹織物の需要が増大し、和糸(国産生糸)の生産が増え、幕末期には諸外国に劣らない良質な生糸の国内生産が可能となりました。副業の主力とされた養蚕は、所沢市域全体で広く行われ 1732(享保 17) 年の記録があります。養蚕の魅力は短期間での現金収入で、年 3~4 回繭を出荷。

**綿織物** 幕末から明治時代にかけて「市」の主要取引商品は縞木綿、紺木綿、絹綿交織の所沢織物。中でも「所澤飛白」は生産量も飛躍的に伸び「市」の目玉商品でした。

## ● 明治維新时期 所沢村と「市」の変遷

明治 4 年廃藩置県後の変遷の末、所沢は埼玉県となり、同 14 年 10 月に「所沢町」になりました。同 20 年に道路規制が加えられ、市日に路上へ出店していた従来の商売慣行は廃れていきました。厳しい自然条件の中、副業が必要とされた所沢の人々は江戸に近い地の利を生かし、横浜開港・明治維新という時代の流れをつかみ、逞しく生きていました。

### 【 所沢地域史グループワークでの感想 】

1. 所沢では、中富・柳瀬・山口地区に民俗資料館、埋蔵文化財調査センター、文化財保護課で、生活用具・農具・織物器具・出土遺物などが分散保管されています。一方、近隣の入間市・狭山市・川越市・東村山には立派な博物館があり、郷土歴史文化を楽しく学べる施設が充実しています。所沢は埼玉県で第 3 位・34 万人の人口があり、郷土を知り郷土愛を育む博物館が欲しいものです。
2. JR 分倍河原駅前ロータリーに新田義貞の勇壮果敢な騎馬像があります。府中市は「史実を通して市民の郷土史への理解を深めると共に、後世に伝えるため、日本の中世史上重要な意義を持つ分倍河原合戦ゆかりのモニュメントを制作し、この地に設置する」と記しています。所沢にも新田義貞に関連して、小手指ヶ原古戦場・勢揃橋・誓詞橋・白旗塚などの史跡があり、日常生活の中で地域史を身近に感じられるモニュメント設置のアイデアがあっても良いと思います。
3. 狭山市立博物館公式 YouTube は、学芸員による現地に密着した歴史・史跡文化財の紹介動画が秀逸です。時代にマッチした YouTube 動画広報で、地域史は私たちの身近なものになりそうです。

以上、所沢地域史をフィールドワークで意欲的に学ばれ、その成果を発表された市民大学 30 期の所沢地域史グループの熱意と研鑽に敬意を表するとともに感謝申し上げる次第です。

担当 Dグループ（佐野、柴崎、安田、青木、粕谷、猪木、喜多、吉住）